

大東文化大学基準別基本方針

教育研究組織の編制原理

2018年12月17日大学評議会

基本方針

本学は、学士課程教育の目的を、「建学の精神に基づき、学問の理論と応用を教授・研究して真理と正義を愛する自主的精神に充ちた良識ある人材を育成し、文化の発展と人類の福祉に貢献すること」と定めている（学則第1条）。また、大学院研究科では、教育目的を、「高度にして専門的な学問の理論及び応用を研究・教授し、その深奥を究めて、文化の創造・発展と人類の福祉に寄与すること」としている（大学院学則第1条）。

1. 教育組織

教育目的を実現するために、学士課程に、文学部（日本文学科、中国文学科、英米文学科、教育学科、書道学科、歴史文化学科）、経済学部（社会経済学科、現代経済学科）、外国語学部（中国語学科、英語学科、日本語学科）、法学部（法律学科、政治学科）、国際関係学部（国際関係学科、国際文化学科）、経営学部（経営学科、企業システム学科（2016年度募集停止）、環境創造学部（環境創造学科（2018年度募集停止）、スポーツ・健康科学部（スポーツ科学科、健康科学科、看護学科）、社会学部（社会学科）、の9学部22学科を置く。

大学院には、文学研究科（日本文学専攻、中国学専攻、英文学専攻、書道学専攻、教育学専攻）、経済学研究科（経済学専攻）、法学研究科（法律学専攻、政治学専攻）、外国語学研究科（中国言語文化学専攻、英語学専攻、日本語文化学専攻）、アジア地域研究科（アジア地域研究専攻）、経営学研究科（経営学専攻）、スポーツ・健康科学研究科（スポーツ・健康科学専攻）の7研究科14専攻、さらに専門職大学院として、法務研究科（法科大学院（2015年度募集停止））を置く。

キャンパスは全学部の1、2年生および国際関係学部、スポーツ・健康科学部の全学年が学ぶ東松山キャンパス、文学部、経済学部、外国語学部、法学部、経営学部、環境創造学部、社会学部の3、4年生が学ぶ板橋キャンパスの2つがある。大学院は、アジア地域研究科、スポーツ・健康科学研究科が東松山キャンパス、それ以外の研究科と法務研究科が板橋キャンパスに置かれている。

学士課程は学部・学科ごとに、大学院は研究科・専攻ごとに、それぞれの特徴に基づいて教育目的を定め、それに沿った教育研究組織が編制されている。

2. 研究組織

本学の特色と強みを生かし、大学附置研究所として、東洋研究所と書道研究所を設置している。

東洋研究所は「アジアを中心とする人文・社会の科学的調査研究を行ない、ひろく学術の発達に寄与すること」を目的とし、書道研究所は、「書に関する研究調査及びこれに関する諸事業を行い、書芸術並びに書教育の高揚発展に寄与すること」を目的とする。

学部附置の研究所として、文学部の人文科学研究所、経済学部の経済研究所、経営学部の経営研究所、外国語学部の語学教育研究所、法学部の法学研究所と国際比較政治研究所、国際関係学部の現代アジア研究所があり、それぞれの学部の特色を生かした研究活動が行われている。

このほか、「ピーター・ラビット」の作者ビアトリクス・ポターの資料を蒐集展示する大東文化大学ビアトリクス・ポター資料館が、東松山市の埼玉県こども動物自然公園内に置かれている。この資料館は、資料の一般公開、ビアトリクス・ポター研究を行うとともに、本学で博物館学を受講する学生を対象とした学芸員実習のための教育施設としても利用される。

これらの附置研究所と資料館の運営については、それぞれに置かれた運営委員会もしくは管理委員会が責任を負い、設置目的に沿った事業を行う。

3. 教育研究の支援体制

本学の教育研究を支えるものとして下記の機関、部署を置く。学園総合情報センター、大東文化歴史資料館（大東アーカイブス）、図書館（板橋キャンパス中央棟図書館、東松山キャンパス 60 周年記念図書館）、北京事務所、入学センター、学生支援センター、キャリアセンター、教職課程センター、国際交流センター、スポーツ振興センター、地域連携センター。これらの機関、部署には運営委員会もしくは管理委員会が設けられている。また、研究を推進する部署として、研究推進室が設けられている。これらの機関、部署は、それぞれの設置目的に沿った運営が行われている。

4. 学問の動向、社会的要請、大学を取り巻く国際的環境等への配慮

本学に設置する教育研究組織については、学問の動向、社会的要請、大学を取り巻く国際的環境等を勘案し、設置している。

5. 教育研究組織の適切性の検証

本学に設置する教育研究組織の適切性については、年度ごとの自己点検・評価において定期的に検証する。